



子どもの育ちと大人の関わり

年齢	子どもの育ち
0歳児 	愛着を形成するころ(※愛着とは身近な大人との強い信頼関係) <ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人との強い信頼関係に基づいて、情緒が安定する。 ・笑う、泣くという表情の変化や体の動き等で、自分の欲求を表現する。 ・目で見たものに対して手を伸ばし、なめたり振ったりして遊ぶ。 ・0歳児後半には、話し手の意図や感情も分かりはじめ、大人からの語りかけを模倣する。 (ものの受け渡し「ちょうだい」「どうぞ」、指さしなど)
1歳児 	探索活動のころ <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものに興味を示して、様々に触って遊ぶ。 ・周囲に対する好奇心や関心をもつ。 ・自分の思いを親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ・1歳半ごろまでに歩行が安定し、移動にも自由さが増す。
2歳児 	運動能力と言葉が伸びるころ <ul style="list-style-type: none"> ・自分にもできるという気持ちが芽生える。 ・かんしゃくを起こしたり、反抗したりする。(自我の順調な育ち) ・言葉の数が増える。 ・走る、跳ぶ、よじのぼる等、全身運動の発達により、遊びの幅が広がる。
3歳児 	依存から自立に向かうころ <ul style="list-style-type: none"> ・身近自立が進み、身の回りの簡単なことができるようになる。 ・友だちと遊ぶことが楽しくなる。 ・「なぜ」「どうして」などの質問が活発になる。 ・自分がしてほしいこと、困ったことを言葉で訴える。(自己主張の芽生え)
4歳児 	自我が形成されるころ <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことをはっきり言う。(自己主張) ・自分の気持ちを抑えたり、我慢したりできるようになる。(自己抑制) ・思いやりやいたわりの気持ちをもつ。 ・自分のイメージの世界に入り込んだり共有したりして遊ぶことを好む。 (役割交代を楽しむごっこ遊びなど)
5歳児 	社会性が形成されるころ <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自己主張したり、相手の立場を考えたりしながら行動する。 ・してよいことや悪いことがあることが分かり、自分なりに考えて行動する。 ・創意工夫を重ねて遊びを発展させる。 ・任された仕事を、責任をもって果たそうとする。 ・友だちと一緒に目標をもち、ルールのある集団遊びを楽しむ。

○子どもの育ちには個人差がありますので、目安として参考にしましょう

○子どもの育ちは各年齢での積み上げが大切です

大人の関わり

とことん愛しましょう

- ・愛情豊かな大人との関わりが人格形成の基盤となりますので、子どもの欲求を十分に満たして信頼関係を築きましょう。
- ・ゆったりと心地よく、人やものと触れ合うことを大切にしましょう。
- ・子どもの発達には個人差があることを理解しましょう。
- ・生活リズムを確立させましょう。

気長に見守りましょう

- ・自分で何かをしようとしている時には、大人を困らせることがあっても温かく見守り、厳しく叱らないで他に興味を向けましょう。
- ・甘えたい気持ち(大人への依存要求)を十分に満たしてやりながら、自発性の芽生えを大切に育てましょう。

子どもの意欲を大切にしましょう

- ・自分でしようとする気持ちを大切に、できた時は温かいまなざしや言葉掛けによって、自分にもできるという気持ち(有能感)を育てましょう。
- ・根気よく他の子どもとの関わり方を教えましょう。
- ・反抗は自我の発達であることを理解し、子どもの思いや行為を温かく支えましょう。

ひとりだちを応援しましょう

- ・自分でできることが増えても、大人が見守りながら、励ましていきましょう。
- ・自我が発達してきますが、まだ自分の気持ちをうまく表現したり、行動に表したりできない時もあるので、子どもの気持ちを優しく共感的に受け止めましょう。
- ・子どもの興味や自発性を大切に、根気強く接しましょう。

友だちとのけんかも「学び」です

- ・友だちと一緒に行動することを喜ぶ一方で、友だちとの関係で悩む時期でもありますので、子どもの気持ちを共感的に受け止め、葛藤を乗り越えられるように支えましょう。
- ・友だちとのけんかを経験しながら、ときには自分の主張を抑制すると、楽しく遊べることに気付くことができるような関わりを心掛けましょう。
- ・共感したり励ましたりすることによって、相手を気遣う気持ちを育てましょう。

いろいろな人と関われる機会をもちましょう

- ・いろいろな人との関わりの中でけんか等が起きても、自分たちで解決しようとする姿を見守りましょう。
- ・自分なりに考えて、納得のいく理由で、ものごとの判断をしているかを見守り、必要に応じて、人との関わりを支えましょう。
- ・子どもの気持ちを温かく受け止め、十分に自己を発揮して活動できるようにしましょう。

将来の夢・希望・豊かな人間性への土台づくり